

報道関係各位

2025年8月20日
三菱地所株式会社

～全国的美大・芸大から厳選された 20 作品が集結～

アート アワード トーキョー マル ノ ウ チ

『ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2025』開催

開催期間：2025 年 9 月 8 日（月）～9 月 23 日（火・祝）

開催場所：行幸地下ギャラリー

三菱地所株式会社は、9月8日（月）～9月23日（火・祝）の期間、「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2025」（以下、AATM）を開催します。

【AATM とは】

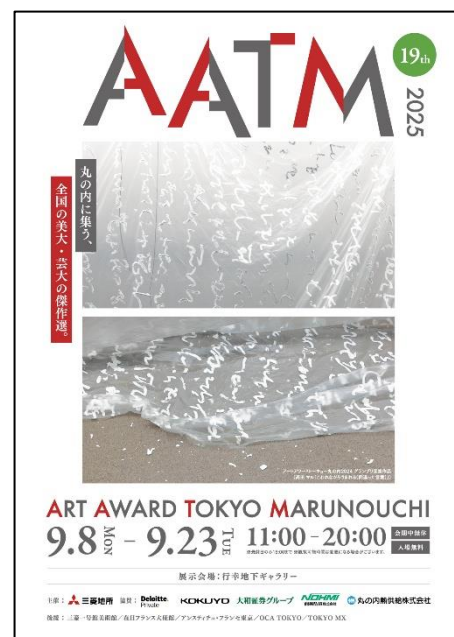
2007 年にスタートした若手アーティストの発掘・育成を目的とした現代美術の展覧会です。全国の主要な美術大学・芸術大学・大学院の卒業修了制作展を審査員が訪問し、発掘したノミネート作品の中から厳選した作品を丸の内に展示。さらに審査員による最終審査を実施し、グランプリや審査員賞などを決定します。

19回目の開催を迎えるAATMは、今年も**全国18校からノミネートされた146点の作品より、厳選した20作品を展示**します。開幕日の9月8日（月）には、20作品の中からグランプリなど各賞を決定し、表彰式を行います。

また、昨年に引き続きスマートフォンアプリ「PINTOR（ピントル）」と連動し、**展示作品の解説を読むことができ、作品に対しての質問を投稿するとアーティストから回答もらえるなど、より“深い”アート鑑賞が楽しめます（※一部アーティストを除く）**。さらに、来場者同士で展示会の感想をシェアするなど、アプリを通して様々な楽しみ方ができます。

期間中は第1回目の開催となったAATM2007に参加し、現在も活躍を続ける薄久保香、谷口真人の作品を紹介する特別展「**AATM2025 サテライト展**」を三菱一号館美術館のEspace 1894にて開催します。

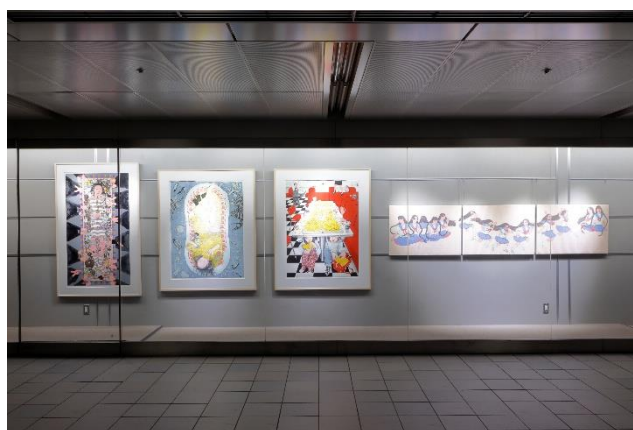
丸の内は今後も、文化・芸術の発信地としてアートとの出会いの場を創り出し、若いアーティスト達の可能性を広げていきます。次世代を担うアーティスト達の清々しく斬新な感性が一堂に会する丸の内で、ぜひお楽しみください。



ノミネート作品の詳細は、こちら（<https://www.marunouchi.com/pickup/event/7303/>）からご覧ください。



▲アートアワードトーキョー丸の内 2024 グランプリ受賞作品
高田マル「こわれながらうまれる（間違った言葉）」



▲会場の展示イメージ（AATM2024 入選者 磯崎海友）

■「ART AWARD TOKYO MARUNOUCHI 2025」開催概要

<開催日程> 2025年9月8日（月）～9月23日（火・祝） 11:00～20:00

※最終日のみ18:00まで。

※観覧可能時間は変更になる場合がございます。

<展示会場> 行幸地下ギャラリー

<入場> 無料

<主催> 三菱地所株式会社

<協賛> Deloitte Private／

コクヨ株式会社／大和証券グループ／

能美防災株式会社／丸の内熱供給株式会社

<後援> 三菱一号館美術館／在日フランス大使館／

アンスティチュ・フランセ東京／OCA TOKYO／TOKYO MX

<Webサイト>

<https://www.marunouchi.com/pickup/event/7303/>



●行幸地下ギャラリー

JR 東京駅地下道、直結、丸ノ内線の改札を出てすぐ。東京駅前、「丸ビル」と「新丸ビル」をつなぐ地下通路のギャラリースペースです。

※AATM2025参加アーティストによるギャラリーツアーを9月13日（土）、23日（火・祝）に予定しています。

詳細はWebサイトをご覧ください。（後日公開予定）

■AATM2025 サテライト展

第1回目の開催となったAATM2007に参加し、現在も活躍を続ける2名のアーティストの作品を紹介する特別展を開催いたします。

<日時> 2025年9月8日（月）～9月23日（火・祝） 10:00～18:00 * 会期中無休、入場無料

<会場> 三菱一号館美術館 Espace 1894

<出展アーティスト> 薄久保香／谷口真人

【審査員】（五十音順）

池田祐子氏（三菱一号館美術館 館長）

今村有策氏（東京藝術大学大学院美術研究科 教授 副学長）

薄久保香氏（現代アーティスト ゲスト審査員）

木村絵理子氏（弘前れんが倉庫美術館 館長）

後藤繁雄氏（編集者、クリエイティブディレクター、京都芸術大学 名誉教授）

小山登美夫氏（小山登美夫ギャラリー 代表、日本現代美術商協会 副代表理事）

建畠哲氏（多摩美術大学 名誉教授）

野口玲一氏（三菱一号館美術館 学芸員）

藪前知子氏（東京都現代美術館 学芸員）

【一次審査を終えた審査員のコメント】

■小山登美夫

今回はテーマにしても表現の方法にしても多様性に富んでいて、流行のようなものはなくなり、自分の方法を手さぐりながらもつかもうとする姿勢が見えました。自分の方法をどう、いつ確固としたものにするかはアーティストにとって、とても大事なことで、その実践、もしくは実験を繰り返しているのは面白いです。



■木村絵理子

今年の審査では、パフォーマンスを経て制作された作品や、留学生の出身国も多様になり、広い世界に視線を向けるアーティストが多くあったことが印象的でした。また絵画作品においても、現実の空間への応答を意識した作品や、伸びやかな描線を大画面で見せる作品が多く、行幸地下通路の広い空間でどのように見えるのか、楽しみにしています。



＜丸の内“まちまるごとワークプレイス”構想＞

丸の内エリアの特性の一つは、135年以上にわたるまちづくりを通じてお客様や様々なステークホルダーと共に築き上げてきた「利便性と集積」です。その特性を踏まえ、テナント企業が自社オフィスだけでは実現できないことや、**個社単独の取り組みでは実現しにくいことを「まちまるごと」でサポート**、エリア全体がプラットフォームとして機能することで、働き方の質や効率を高めます。



▲まちまるごとワークプレイスのイメージ

始動リリース : https://www.mec.co.jp/news/detail/2025/05/22_mec2500522_machi

以 上